

## ▲▽新春インタビュー▽▲

### 2022 ミス日本「海の日」属安紀奈さん③

- 属さんは船員さんにどのようなイメージを持っていますか。
  - ☉ 船員さんは、海と向き合う人たち。カッコいいイメージがあります。神戸で大小たくさん船が行き来しているのを見ましたが、船をまっすぐ走らせるのも大変な中、周囲に気を配りながら、進路や速度に注意して操縦するのはとても難しそう。常に波や風の状況を 確認し、24 時間走り続けるのも大変だと思います。船の大きさによって何人も人が乗船し、役割分担をして一人一人が自分の仕事に責任を持って取り組み、さらにチームワークが良くなければできない仕事だと思うので、プロフェッショナルな人たちだと思います。
- 船員さんにメッセージがあればお願いします。
  - ☉ 私は、ミス日本「海の日」として、海の事故ゼロキャンペーンの活動もしています。船で働く皆さん、港で働く皆さんの活躍があって、私たちが快適に生活できていますが、そのためには船が安全に運航される必要があります。まずは船員の皆さんのため、次に皆さんのご家族や私たちの生活のために、これからも安心安全な航海をしていただきたく思います。
- 1月に2023 ミス日本「海の日」が選出されます。次のミス日本「海の日」にアドバイスをお願いします。
  - ☉ 海や港に関わる機会が増えるので、まずは活動の一つ一つを楽しんで、そこで海や船、港に関することを学んでいただきたいと思います。また、私たちはSNSなどを通して若い人たちに情報を届けやすいと思うので、自分らしい発信の仕方を見つけていただきたいと思います。そして、若い世代の人たちに、海に関わる仕事により興味を持っていただけるような、そういう発信力を身に付けてほしいと思います。
- 今後の活動について教えてください。
  - ☉ 私は今後もモデル活動を続けますが、さらにパーソナルな部分で強化していきたいと考えています。特に地元（山口県）が大好きなので、地元の観光や食べ物、産業を知っていきたくて、その学びをいろいろな人に発信していくことで、山口県といえばこの人というように言ってもらえる人を目指します。もちろん、地元の海や港の発信もしていきます。地元の徳山下松港は、2023年は開港101周年です。2023年は100年が過ぎて、新たな一歩を踏み出す年です。これからの発展につながるような発信を、私もしていきたいと思っています。
- 徳山下松港は101年目の新たなステージに進み、属さんもミス日本「海の日」としての1年の経験を糧に次のステージに進まれます。属さんの今後ますますのご活躍を期待しております。本日はありがとうございました。

「海員だより」

0--0--0--0--0--0 プロフィール ☆ 属安紀奈 （さっかあきな） 0--0--0--0--0--0

山口県周南市出身。モデル。「多様性の重要性を発信したい」「地元へ何か貢献できれば」と思い、ミス日本コンテストに応募。2020ミス日本コンテストではファイナリストとなるも受賞を逃し、今回、2度目の挑戦でミス日本「海の日」に輝いた。趣味はピラティスや自宅トレーニング。座右の銘は『みんなちがって、みんないい』。